

令和5年度（保土ヶ谷高等学校）不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 課題・目標別実施結果

項 目	目 標	実施結果と目標の達成状況
法令遵守意識の向上	法令の遵守 服務規律の徹底	職場のコミュニケーションを活性化し、風通しの良い職場風土を構築することにより、事故・不祥事について自分事として捉える姿勢が醸成され、主体的に注意喚起と意識啓発の取り組みを実践できた。
職場のハラスメントの防止	パワハラ・セクハラ・マタハラ等の根絶	全職員が「職場からハラスメントは絶対に起こさない」との強い姿勢を打ち出し、不祥事防止研修等で事例を基に注意喚起を行うことで、当事者意識を持って人権感覚の醸成と人権意識の向上が図れた。
生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	わいせつ・セクハラ行為の根絶	不祥事防止研修や日常的な注意喚起により、生徒との適切な距離感を持ったコミュニケーションについて全職員で確認した。また、コミュニケーションツールの適切な使用に関しての徹底が図れた。
体罰、不適切な指導の防止	生徒理解に基づく指導の推進、不適切指導の防止	生徒情報の共有と生徒理解を深め、丁寧で粘り強い対応を行った。また、生徒指導については、生徒に寄り添い、複数職員による指導を徹底し、適切な指導が行われた。 部活動インストラクターを含め部活動指導ハンドブックを活用し事故防止に努めた。
入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止	入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故の未然防止	入学者選抜、成績処理関係書類の作成及び取扱いについては、通知や研修を通して周知徹底し、事故不祥事を防止できた。 進路関係書類の作成では複数のチェック体制で適正な処理ができた。
個人情報等の管理、情報セキュリティ対策	個人情報等の適切な管理及び情報セキュリティ対策の徹底	教務手帳の一元管理と、試験答案等個人情報の誤配付・誤廃棄防止等の事故防止に向けた取り組みを全職員で確認した。また、「情報セキュリティポリシー」に基づき、情報を組織的に管理することで、情報流出や消失のリスクを減らし、情報を効率的に活用することができた。
交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	交通事故防止及び交通法規の遵守	不祥事防止研修を行い、交通法規遵守の意識を向上させ、事故発生後の適切な対応についても確認を行った。
業務執行体制の確保等	業務の効率化及び事故防止	ICTの積極的な活用により、業務の合理化・情報化を推進することができた。また、適切な業務の引き継ぎと複数職員での業務遂行、チェック体制の確立により事故防止が図れた。

財務事務等の適正執行	財務事務等の適正執行及び不適切経理処理の防止	各担当者による正確な帳票類の作成と適正なチェック体制の構築により、適切な管理と適正な会計処理を行うことができた。
------------	------------------------	--

○ 令和5年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和6年度に取り組むべき課題 (学校長意見)

令和5年度不祥事ゼロプログラムを実施し、概ね達成することができた。しかしながら日常業務の中で、事故・不祥事につながりかねない事象もあり、引き続きチェック機能の向上及び検証は常に行う必要がある。

本校では、日頃から職員会議等の時間を活用し、副校長より職員への事故・不祥事防止に係る注意喚起を行うようにしてきた。また、校長として、職員ひとり一人に対しても声かけを大切にし、風通しのよい職場づくりに努めながら、指導・監督、注意喚起を行ってきた。

今後とも、事故・不祥事の未然防止のため必要な注意喚起を怠らず、事故・不祥事の起こらない環境づくりに努め、今年度の不祥事ゼロプログラムを検証して課題の抽出を図り、職員の共通認識のもとでより効果的な実践を行う。